

投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	土木局港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 芝原 平 (建設係長 坪田 勝幸)		内線	4440 (4450)																				
事業種目	港湾事業		事業採択年度	H 2	現計画	再評価時点																				
事業名	相生港改修(地方)事業		着工年度	H 3	総事業費	約42億円																				
			再評価年度	H 1 2	内地補償費	約0.1億円																				
事業区間	鯛浜地区			完成予定年度	H 1 9	H 2 0																				
				進捗率 (内用補進捗率)	80%(0%)	52%(%)																				
所在地	兵庫県相生市鯛浜			残事業費	約8.5億円																					
				事業の目的			事業内容																			
水域での漁船の安全な操船や停泊、陸揚げや出漁準備時に多くの漁船が同時に作業可能となる等、効率的な漁業活動を支援するため、係留施設、ふ頭用地等の漁業施設を整備する。これにより相生港の漁業発展、地域の活性化を図るものである。				現計画 (H12再評価)																						
				-2.0m物揚場	L = 180m	(180m)																				
				南防波堤	L = 150m	(150m)																				
				防波護岸	L = 229m	(229m)																				
				道路	L = 237m	(0m)																				
				〔負担割合 国: 4/10, 県: 6/10〕																						
				ふ頭用地	A = 8,600m ²	(8,600m ²)																				
				〔県単独〕																						
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元相生市を挙げて、本事業に対する早期供用への要請は強い。 ・ カキの漁獲高(経営体数) H1; 165t(18)、H10; 616t(24)、H14; 800t(28) 漁獲高、経営体数ともに増加しており、係留施設・ふ頭用地等は狭隘な状況である。また、相生漁業協同組合は種ガキからの一貫養殖等に取り組み、相生産カキのブランド力が高まっており、今後も漁獲高増加が見込まれている。 																									
進捗状況	<table border="0"> <tr> <td>-2.0m物揚場</td> <td>L = 172m (96%)</td> <td>: 残工事</td> <td>L = 8m</td> </tr> <tr> <td>南防波堤</td> <td>L = 80m (80%)</td> <td>: 残工事</td> <td>L = 70m</td> </tr> <tr> <td>防波護岸</td> <td>L = 227m (99%)</td> <td>: 残工事</td> <td>L = 2m</td> </tr> <tr> <td>道路</td> <td>L = 0m (0%)</td> <td>: 残工事</td> <td>L = 237m</td> </tr> <tr> <td>ふ頭用地</td> <td>A = 0m² (0%)</td> <td>: 残工事</td> <td>A = 8,600m²</td> </tr> </table> <p>事業は順調に進捗しており、工期が1年短縮できる見込みである。</p>						-2.0m物揚場	L = 172m (96%)	: 残工事	L = 8m	南防波堤	L = 80m (80%)	: 残工事	L = 70m	防波護岸	L = 227m (99%)	: 残工事	L = 2m	道路	L = 0m (0%)	: 残工事	L = 237m	ふ頭用地	A = 0m ² (0%)	: 残工事	A = 8,600m ²
-2.0m物揚場	L = 172m (96%)	: 残工事	L = 8m																							
南防波堤	L = 80m (80%)	: 残工事	L = 70m																							
防波護岸	L = 227m (99%)	: 残工事	L = 2m																							
道路	L = 0m (0%)	: 残工事	L = 237m																							
ふ頭用地	A = 0m ² (0%)	: 残工事	A = 8,600m ²																							
評価視点	評価結果の説明																									
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ カキ等の陸揚げ施設、加工施設等の不足により、漁業活動に支障をきたしている。特に相生漁協の主力商品であるカキの加工工場が現在の陸揚げ施設から離れており、漁業活動に多大な労力を要しているため、漁業活動の効率化が求められている。 																									
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設整備により、漁獲物の陸揚げ作業と加工作業を一体的に行うことができるため、円滑な漁業活動が営める。 ・ 道路整備により漁業施設への交通の利便性が向上し、漁業活動の効率化を図れる。また、直販所等への集客力向上も期待でき、地域の活性化につながる。 																									
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設が整備されることにより、操船の安全性が向上する。 ・ 費用便益比 B / C = 2.2 ・ ふ頭用地にH16災害に伴う河川浚渫土砂を受け入れる予定であり、災害の復旧に寄与する。 																									
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防波堤(南)の本体に有孔ケーソン工法を採用することにより、港内の海水を交換させ、水質悪化を防止する。 ・ 相生市は「相生湾臨海部活性化構想」で当地区をまちづくりの重要拠点に位置づけており、地域のみならず市全体として早期完成が望まれている。 																									
再々評価の結果	継続	左の理由	水産業を支援することによって、相生臨海部の活性化が図れることから、引き続き事業を進める必要がある。																							